

# NTA-371 Plus 組立説明書

この度はナガラNTA-371 Plusをお買い上げいただき誠に有難うございます。  
このアンテナは、ナガラトライバンダーの中でもワンランク上をねらい、入念に設計された14/21/28MHz帯用高性能9エレメント・マルチドライブ 八木アンテナです。  
組立に先立ち、この組立説明書をよく読んでアンテナの構造や組立方法を十分理解してください。

## ↑↑↑↑ PROFILE ↑↑↑↑

### 1) 高効率

14MHzは5エレメント、21MHzは6エレメント、28MHzは7エレメントで動作します。  
移相エレメントを採用した高効率トラップを使用し、モノバンドに全く劣らない効率を確保。  
また、28MHzは単独フルサイズリフレクターを搭載し、最適ビームパターンを確保しています。

### 2) 広帯域設計

マルチラジエーター採用で14/21/28MHz各バンド、全域にわたり低SWR設計。  
バンドエッジまで切れのよいビームパターンとゲインを確保しています。  
28MHz帯はFM帯域まで連続して広帯域に無調整で使用できます。

### 3) 高耐電力

送信機出力 3Kw連続に耐える高耐電力設計です。(BL-8K標準装備)

### 4) その他仕様

周波数	14/21/28MHz帯
型式	9エレメントYagi 14MHz 5エレメント動作 21MHz 6エレメント動作 28MHz 7エレメント動作
最大エレメント長	9.28m
ブーム長	7.32m
風圧面積	1.87m <sup>2</sup>
回転半径	5.97m
最大空中線入力	3Kw連続
重量	38.0Kg
最大適合マスト径	48~61mm
利得	14MHz : 7.85dBi 21MHz : 8.15dBi 28MHz : 8.35dBi
VSWR及び指向特性	添付図参照

**NAGARA**

株式会社 ナガラ電子工業

NDK-INST 01048

## §§§§ 組立に先だって §§§§

\*各製品の切断面や端面が鋭くなっている箇所がございます。呉々も怪我をされないようご注意ください。  
\*部品表と各パーツとを照合し不足が無いことを確認してください。

- \*組立順序
- (1) ブームの接合。
  - (2) エレメント・サポートの組立及びラジエーターエレメントの取付。
  - (3) ディレクター、リフレクターエレメント中央部の組立。
  - (4) トラップ周辺エレメントの組立。
  - (5) 移相エレメントの取付。
  - (6) 中央部エレメントとトラップ周辺エレメントの接続。
  - (7) 各エレメントをブームに取付
  - (8) フェーズラインエレメントとバランの取付。
  - (9) 各部の増締めとテナコートの塗布
  - (10) タワーへ取付、支線の取付

\*このアンテナは9組のエレメントから構成されています。

前から順にそれぞれ 黒、緑、紫、赤紫、赤、赤青、青、黄青、黄のカラーマークが付けられています。  
エレメントは前から順に第1ディレクター、第2ディレクター、第3ディレクター、第1ラジエーター、第2ラジエーター、第3ラジエーター、第4ラジエーター、第1リフレクター、第2リフレクター と呼びます。

\*多人数で作業を行うときは必ずリーダーを決め、その人の指図で作業を進めて下さい。

各自がばらばらに行くと組立ミスが発生します。リーダーは必ず他のメンバーの作業の仕上がり具合を責任をもってチェックして下さい。

\*フェーズラインエレメントと他のパーツ(エレメント、ビス等)との接合部に付属のテナメイトを塗布して下さい。パイプの差込み部にもテナメイトを塗布して下さい。

尚ここに砂やほこりが絶対に付かないよう注意して下さい。パイプどうしが抜き差し出来なくなります。

\*Uボルトのナットやセルフタップネジにもテナメイトを塗布して下さい、ねじ込みが楽になります。

\*テナコートの塗布は金属部のみとし、プラスチックには塗らないで下さい。

## §§§§ 組立作業手順 §§§§

### 1. 「ブームの組立」 図1参照

- \*ブームは2本に別れ、それぞれにエレメント位置を示すカラー・マークが記されています。
- \*ブームスプライス(43)(ブーム接続用のインナーパイプ)は差し込み代が長いのでテナメイトを塗布し、砂やほこりが着かないように十分注意して下さい。
- \*ブームの内面にも砂やほこりが着かないように注意して下さい。一旦咬み込みますと抜き差し出来なくなってしまいます。
- \*ブームスプライス(43)の約半分にテナメイトを塗布しブームA(41)に差し込み止め穴(6.5mm)をあわせM6x60ネジ(44)で組立ます。
- \*ブームスプライスの残り半分にテナメイトを塗布し、ブームB(42)を差し込み、止め穴(6.5mm)をあわせM6x60ネジ(44)で組立ます。
- \*ブームの両端に51mmキャップ(58)をはめ込みますが、後の作業をしやすくする為アンテナ組立完了後に行います。

ご注意

- \* トラップコイルは6種類12本あります。それぞれ同じ形をしている物もありますが各種類ごとに特性が違いますので間違えないようにして下さい。 又、左右対称になっていますが、組立の穴位置が違いますので、カラーコードが必ずブーム側に来るように組立て下さい。
- \* 各エレメント及びトラップをカラーマーク毎に分類し互いに混じり合わない様に注意して下さい
- \* 各エレメントパイプの差込み部にテナメイトを塗布します。それぞれのパイプを差込んでネジ穴をあわせ4x8セルフネジ(45)で締め付けます。セルフタップネジにもテナメイトを塗って締め付けてください。

### 2. 「エレメント・サポート部の組立」 図2参照 4組作ります。

\*インシュレーター(3)をエレメント・サポート(1)、(2)にM5x35ネジ(4)及びM5ロックワッシャー(8)で取り付けます。この時M5x35ネジ(4)は強く締め付けしないでインシュレーター(3)が軽く動く程度にしておきます。

\*第一ラジエーター

短い方のエレメント・サポート部のインシュレーター(3)にエレメント15/19x1826(9)を乗せ、エレメント先端の組立穴(3.7mm)が下を向く様にM5x40ネジ(5)及び、M5ロックワッシャー(8)で取り付けます。ブームに近いネジは後でフェーズズライン等を取り付けますので、今はあまり強く締め付ける必要はありません。

\*先ほどのインシュレーター取付ネジM5x35ネジ(4)を増し締めし、固定します。

\*エレメント(9)の先端にエレメント(10)を差し込み、4x8セルフタップネジ(45)で固定後、12.7mmキャップ(56)をエレメント先端に差し込みます。

## \*第2, 第3, 第4ラジエター

長い方のエレメント・サポート部のインシュレーター(3)にエレメント25/28x1426(11)を乗せ、エレメント先端の組立穴(3.7mm)が下を向く様にブーム側の穴にはM5 x 50ネジ(7)、先端側の穴にはM5 x 45ネジ(6)及び、M5ロックワッシャー(8)で取り付けます。取付ネジの長さが違いますのでご注意ください。ブームに近いネジは後でフェーズズライン等を取り付けますので、今はあまり強く締め付ける必要はありません。  
\*先ほどのインシュレーター取付ネジM5 x 35ネジ(4)を増し締めし、固定します。

## 3. 「ディレクター・リフレクターエレメント中央部の組立」 図3参照

\*色分けした各エレメントを差し込み部にテナメイトを塗布しながら、それぞれのパイプに差し込み、穴を合わせて、4 x 8セルフタップネジ(45)で組み立てます。  
セルフタップネジにもテナメイトを塗って締め付けて下さい。  
\*各エレメントともに差し込み部が長いので、砂やほこりを付着させないよう注意し、パイプどうしを咬み込ませないよう作業を進めて下さい。  
\*第3ディレクター(紫)と第1リフレクター(黄青)はそれぞれ先端エレメントも組み立てて下さい。  
\*第3ディレクターと第1リフレクターのエレメント先端に12.7キャップ(56)を差し込みます。

## 4. 「トラップ周辺エレメントの組立」 図4参照

\*各トラップキャパシターとブーム側のエレメントは4x8セルフタップネジ(45)で工場出荷時に組立済みです。  
\*各トラップキャパシターの組立済・ブーム側エレメントの反対側パイプに同じカラーマークの先端エレメントを4x8セルフタップネジ(45)で組み立てます。  
第1ディレクター(黒)と第3、第4ラジエター(赤青)(青)の先端エレメントには、それぞれ移相エレメント止め金具(小)を通し、カラーマーク付近に仮止めします。  
\*第2ディレクターの先端エレメントの先に9.53キャップ(55)を差し込みます。その他のエレメントの先には15.8キャップ(57)を差し込みます。

## 5. 「移相エレメントの取付」 図5参照

移相エレメントの短い方の足・・・・・・・・・・トラップキャパシターに付ける。  
長い方の足(カラーマーク側)・・・・・・・・移相エレメント止め金具に付ける。  
\*大きい移相エレメント、小さい移相エレメント、それぞれ取付位置を間違えないようお願いします。位置を間違えますと、止め金具の位置がエレメントのカラーマークと合いませんので確認をしながら組み立てて下さい。

## 6. 「組立済トラップキャパシター周辺部をエレメント中央部に接続する付」 図6参照

\*組立済の各エレメント中央部に移相エレメントを取付た、トラップキャパシター周辺部をカラーマークの色を合わせ間違えないよう、注意深く組立ます。

## 7. 「エレメントをブームに取り付ける」 図7&全体図参照

アンテナが平面上に展開できる場所があれば、仮のマストを立て、ブームを固定し、作業を進めると実際に取付る状態に近い状況で組立が出来ますのでタワーに取付た際、きれいに仕上がります。  
\*ブーム上にエレメントを全体図の様に配置します。  
各トラップのドレン・ホール(水抜き穴)が下を向く様に取り付けます。  
尚ブーム上のカラー・マークにはエレメントの前縁を合わせます。  
\*図の様にエレメント・クランプ(44)及び51x110Uボルト(46)でエレメントをブームに固定します。この時、エレメントを止めるUボルトはブームに対し斜めにならないよう注意してください。斜めになっていますとあとで振動等により緩んでしまう事があります。  
\*各エレメントのトラップのドレンホールが下を向いていることを、再度確認して下さい。  
\*第2、第3、第4ラジエターを除き、全てのエレメントが平行になるようにUボルトを締め付けて下さい。第2、第3、第4ラジエターはフェーズズラインエレメントを取り付ける際に移動する必要がありますので、フェーズズラインエレメントを取り付けた後、固定します。

## 8. 「ブームキャップの取付」と「移相エレメントの修正」

\*ブームの両端に51mmキャップを差し込みます。  
\*ラジエター内側のキャップは付属していません。  
\*各移相エレメントがエレメントに対して垂直になるようにクランプの位置を修正して下さい。

## 9. 「給電部の取付・・・第1ラジエター」 図8、図9、図10、図11参照

\*図8は給電部の見取り図です。  
\*組立順序 1) 専用バランの取付。  
2) インシュレーターCセットの取付。  
2) フェーズズラインエレメントの取付。  
\*図8を参照しバラン・リード(64)と取付金具(65)をバラン(63)に取り付けます。  
この時M5ナットをあまり強く締め過ぎますとバランのネジが共回りしバランを壊してしまいますから締すぎない様注意して下さい。「締め付けトルク 10Kg・cm以下」  
♥バランの周りが狭いので給電側の同軸ケーブルの防水処理がバランを取り付けた状態では困難です。  
●同軸ケーブルをアンテナに付けたままでマストに取付が可能な場合は、バランをブームに固定する前に、同軸ケーブルをバランに取付、防水処理を済ませた後、ブームに固定して下さい。  
●アンテナをマストに取り付けた後、同軸ケーブルをバランに接続する場合。  
今はバランをブームに固定しないで、バランリードをフェーズズラインエレメントと共にエレメントに固定し、バランリードをバラン側で一旦取り外しておきます。アンテナをマストに設置後、バランに同軸ケーブルを接続、防水処理後、バランリードに接続、ブームに固定します。  
♥コネクタの防水処理の際、バランのケースとコネクタ周囲の隙間をふさがないようにして下さい。  
\*フェーズズラインエレメント(52)の中央にスペーサーアッセンブリー(54)を付属のネジを使ってしっかりと取り付けます。  
\*図9、図10、図11の順に組み立てます。第1ラジエターから図の説明に従って作業を進めて下さい。  
\*アンテナをマスト(タワー)に取り付けたとき、ブームが多少垂れ下がりフェーズズラインエレメントに張力がかかりますからブームのマスト取付位置をもちあげて第3ラジエターと第4ラジエターの位置を調整し、張力がかからないように位置を決定して下さい。  
\*第1ラジエターの位置が基準になります。第2、第3、第4ラジエターの位置はブーム上のマーク位置ではなくフェーズズラインに張力のかからない位置に固定して下さい。  
\*各部のビスやナットを最終的に締め付けて下さい。  
第2～第4ラジエターに取り付けたフェーズズラインが交差していることを、再度ご確認ください。

## 10. 「マストクランプの取付」 図12参照

\*ブームのセンターマーク(黒)の位置にマストクランプ(47)を51x95Uボルト(49)で取り付けます。アンテナをマストに取り付けたとき、エレメントが地面に平行になるようにします。

## 11. 「テナコートの塗布」

\*再度、各部分のネジ類が締まっているかご確認ください。ネジ類がゆるんだままテナコートを塗布しますと、後で、接触不良の原因になることがあります。  
\*金属部分にテナコートを刷毛で塗布して下さい。プラスチック部には塗布しないで下さい。

## 12. 「タワーへ取付・支線の取付」 図9、図2参照

\*ブーム両端のエレメントにブーム吊り上げ用の6mmポリロープ(62)を取り付けます。  
ロープの他端はマストクランプ付近に仮止めしておきます。  
\*再度アンテナの組立に間違いが無いか確認してください。  
注意深くタワー上に釣り上げて、60x115Uボルト(50)でマストに取り付けます。  
\*エレメントが地面と平行(マストと直角)になるように51mmUボルトを緩め、修正して、再度締め付けて下さい。  
\*取り付けしたブームから約1.5m上のマストに支線吊り金具(59)を60x135Uボルト(51)を使い固定します。  
\*先ほど仮止めした6mmポリロープをシングル(60)に回し、吊り金具に付属のネジで組み付けます。  
\*6mmポリロープでブームを引き上げ水平になるように調整し、固定します。  
前後のポリロープの引き具合を均等にし、ブームを下げて、調整することができます。

**NAGARA**

株式会社 ナガラ電子工業

〒527-0074 滋賀県東近江市市辺町2876-2

NAGARA DENSHI KOGYO CO.,LTD

2876-2 ICHINOBE-CHO HIGASHIOMI-SHI 527-0074 JAPAN

TEL (0748) 20-1650

FAX (0748) 20-1651

TEL +81 748 20 1650

FAX +81 748 20 1651

<http://www.nagara-ant.com>

NDK-INST 01048

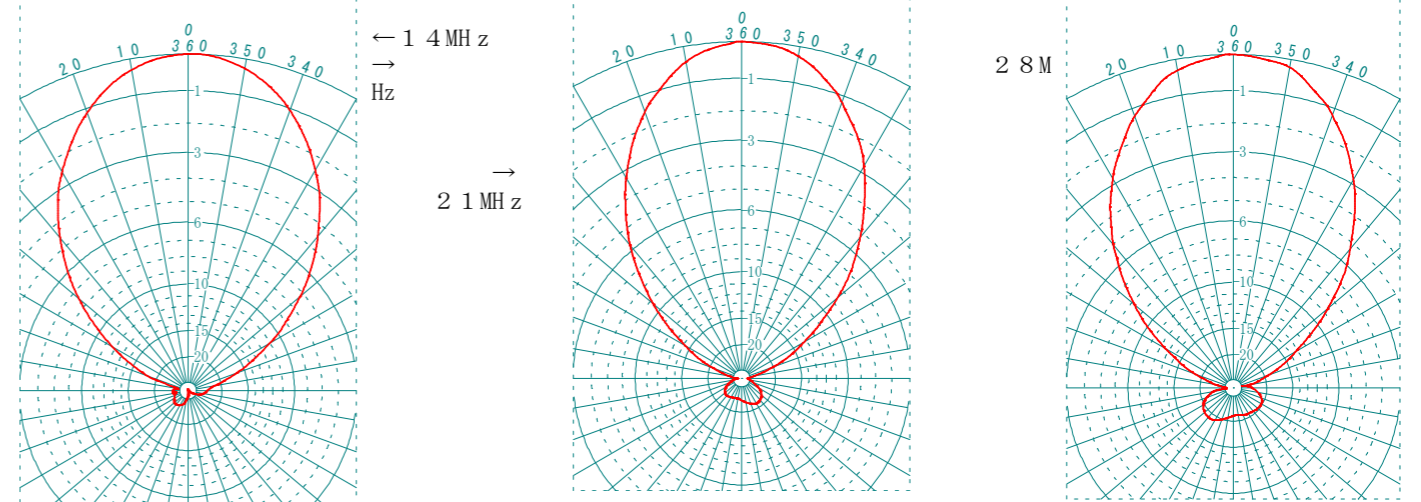
## NTA-371 部品表

品番	部 品 名	使 用 箇 所	数量	チェック欄
1	エレメントサポート (短)	第1ラジエター	1	
2	エレメントサポート (長)	第2～第4ラジエター	3	
3	インシュレーター	エレメントサポートに取付	16	
4	M5 x 3.5 ネジ	インシュレーター取付用	32	
5	M5 x 4.0 ネジ	第1ラジエター エレメント固定用	4	
6	M5 x 4.5 ネジ	第1～第4ラジエター エレメント固定用 先端側	6	
7	M5 x 5.0 ネジ	第1～第4ラジエター エレメント固定用 ブーム側	6	
8	M5 ロックワッシャー	第1～第4ラジエターM5ネジに使用	48	
9	エレメント15/19x1826(赤紫)	第1ラジエター	2	
10	エレメント12.70x800(赤紫)	第1ラジエター	2	
11	エレメント25/28x1426(赤、赤青、青)	第2～第4ラジエター	6	
12	エレメント22.22x503(赤、黄)	第1ラジエター、第2リフレクター トラップに組立済み	4	
13	第2ラジエタートラップキャパシター(赤)	第2ラジエター	2	
14	エレメント15.88x1610(赤)	第2ラジエター	2	
15	エレメント22.22x600(赤青、青)	第3～第4ラジエター トラップに組立済み	4	
16	第3ラジエタートラップキャパシター(赤青)	第3ラジエター	2	
17	エレメント15.88x1630(赤青)	第3ラジエター	2	
18	第4ラジエタートラップキャパシター(青)	第4ラジエター	2	
19	エレメント15.88x1730(青)	第4ラジエター	2	
20	エレメント28/31x1210(黒)	第1ディレクター	1	
21	エレメント25.40x1210(黒)	第1ディレクター	2	
22	エレメント22.22x500(黒)	第1ディレクター トラップに組立済み	2	
23	第1ディレクタートラップキャパシター(黒)	第1ディレクター	2	
24	エレメント15.88x1720(黒)	第1ディレクター	2	
25	エレメント25/28x1826(緑)	第2ディレクター	1	
26	エレメント22.22x1130(緑)	第2ディレクター	2	
27	第2ディレクタートラップキャパシター(緑)	第2ディレクター	2	
28	エレメント 9.53x642(緑)	第2ディレクター	2	
29	エレメント19/22x1826(紫、黄青)	第3ディレクター、第1リフレクター	2	
30	エレメント15.88x727(紫、黄青)	第3ディレクター、第1リフレクター	4	
31	エレメント12.7x920(紫)	第3ディレクター	2	
32	エレメント12.7x1210(黄青)	第1リフレクター	2	
33	エレメント28/31x1826(黄)	第2リフレクター	1	
34	エレメント25.4x1790(黄)	第2リフレクター	2	
35	第2リフレクタートラップキャパシター(黄)	第2リフレクター	2	
36	エレメント15.88x1730(黄)	第2リフレクター	2	
37	トラップ用移相エレメントA(大)	各トラップ、取付位置にご注意	10	
38	トラップ用移相エレメントB(小)	第1第2ディレクター、第3第4ラジエター	8	
39	移相エレメント留金具(大)ネジ付	各トラップ 22.22エレメント用 組立済	12	
40	移相エレメント留金具(小)ネジ付	各トラップ 15.88エレメント用	6	
41	ブームA 50.8x3658 ディレクター側	黒、緑、紫、赤紫、赤のカラーマーク付き	1	
42	ブームB 50.8x3658 リフレクター側	赤青、青、黄青、黄、グリーン 位置 カラーマーク付き	1	
43	ブームスプライス 47.62x3658	ブーム接続用パイプ	1	
44	M6 x 6.0ネジ セット	ブーム接続用	2	
45	4 x 8セルフタップネジ (予備5ヶ含む)	エレメント接続用	53	
46	エレメントクランプ	エレメント～ブーム取付用、支線吊り金具	10	
47	マストクランプ	ブーム～マスト取付用	1	
48	51x110Uボルト(ナット、スプリングワッシャー付)	エレメント取付用	9	
49	51x95Uボルト(ナット、ヒラ、スプリングワッシャー付)	(マストクランプ用) ブーム取付用	2	
50	60x115Uボルト(ナット、ヒラ、スプリングワッシャー付)	(マストクランプ用) マスト取付用	2	
51	60x135Uボルト(ナット、スプリングワッシャー付)	ブーム吊り金具～マスト取付用	1	
52	フェーズラインエレメント (5x1185mm)	第2～第4ラジエター間	4	
53	フェーズラインエレメント (25x320mm)	第1～第2ラジエター間	2	
54	スペーサー・アッセンブリー	フェーズラインエレメントに取付	2	
55	9.53mmキャップ	第2ディレクター先端	2	
56	12.7mmキャップ	第3ディレクター、第1ラジエター、第1リフレクター	6	
57	15.8mmキャップ	第1ディレクター、第2～第4ラジエター、第2リフレクター先端	10	
58	51mmキャップ	ブーム両端	2	
59	支線吊り金具	マストに固定し、シングルポリロープを固定	1	
60	シンプル	吊り金具～ポリロープ	2	
61	M6x4.0ボルト(ナット、スプリングワッシャー付)	吊り金具～シンプル取付用	2	
62	6mmポリロープ	ブーム吊り用ロープ	10m	
63	専用ハイパワーバラン	第1ラジエター直後に取付	1	
64	バラン用リード線 12.0mm	バラン～第1ラジエター接続用	2	
65	バラン取付金具セット	バラン～ブーム取付	1	
66	M5・Uボルト (ナット、ワッシャー付)	バラン取付用	1	
67	テナメイト (旧名:ベネトロックス)		1	
68	テナコート1/6		1	
69	組立説明書(本書)		1	

NDK-INST 01048

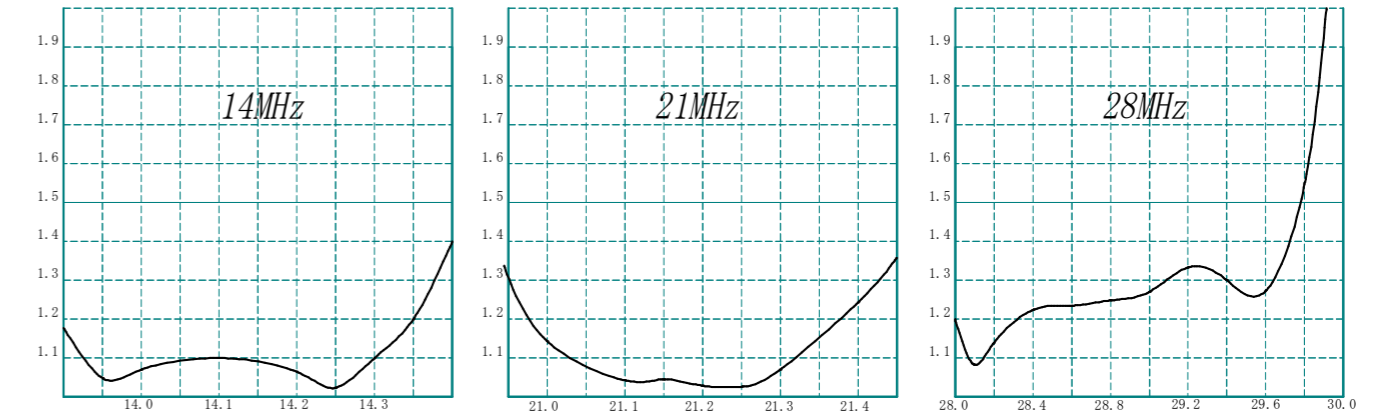
## ♥NTA-371Plus 代表ビームパターン例

各バンドの代表パターン例を示します。  
 実際に設置された状態では付近の状況により使用感が異なります。  
 例えばアンテナから50m先でアンテナより10m下方に一本の電線があればその電線は十分大きな影響を与えます。  
 また、アンテナ下方のシャックの建物も同様に影響します。  
 アンテナに到来する電波は直接波と大地反射波及び障害物からの反射波などから成りますので、障害物からの反射波が大きいほどパターン歪は大きくなります。大地反射波に不均一があればこれも考慮に入れる必要があります。  
 ここに掲げるパターン例にも測定値での若干の反射波の影響があらわれています。  
 アンテナが受ける反射波を小さくするには障害物からの距離を大きくしなければなりません。設置場所を自由に選べる場合は少なく、せめて高さを可能な限り高く架設して下さい。



## ♥NTA-371Plus SWR特性

各バンドのSWR特性を示します。  
 地上高20mに架設し周囲に大きな障害物がない状態で測定した値です。SWRは周囲の状態により異なった値を示すことがあります。同一タワーに他のアンテナを同居させるような場合、組合せによっては大きな悪影響を受けることがありますので注意が必要です。アンテナの方向を変えるとSWRが変化するときには周囲に何か障害物があると考えられます。  
 使用する同軸ケーブルに損失が無い場合、多少SWRが高くてもアンテナチューナーを併用すれば問題なく運用できますが、設置したアンテナのSWR特性が本例と著しく異なる場合は何処かに間違いがあると考えられますので調べてください。



## ♣アンテナの防水処理

アンテナ給電部バランのコネクターだけを自己融着テープを使って防水処理して下さい。  
 アンテナは本来屋外機器として設計されています。  
 バランコネクター部を除き、そのまま防水処理をしないで使用していただいても全く問題はございません。  
 バランの内部やエレメントパイプ、ブームパイプの内部には、外から入る水だけでなく、温度差などにより、内部で水(水滴)が発生します。これを防ぐのはテーピングやコーキングでは無理ですから、入った水や発生した水は速やかに排出できるようにするのが適切と考えます。  
 バランのコネクター座とケースの隙間は水抜きスペースですので絶対に詰め物をしないで下さい。  
 エレメントの接続部分も上記理由でテーピングはしないで下さい。

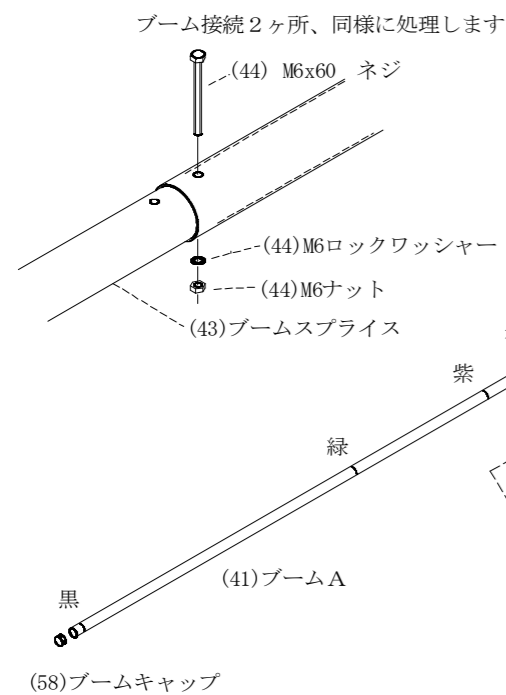
NDK-INST NTA-371Plus 01048

(43)ブームスプライスの一端から中央までテナメイトを薄く塗布し、砂や埃がつかない様に注意しながら

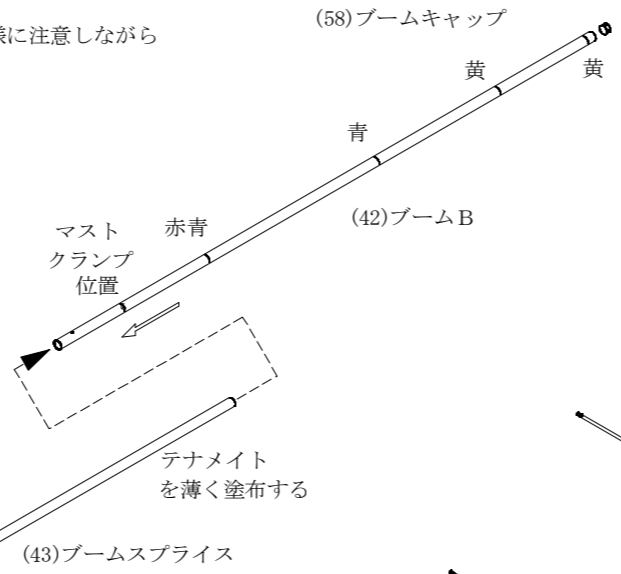
(42)ブームBに慎重に挿入し、対応する穴を合わせ(44)M6ネジにて固定します。

(42)ブームBから露出した残り半分の(43)ブームスプライスにもテナメイトを塗布し

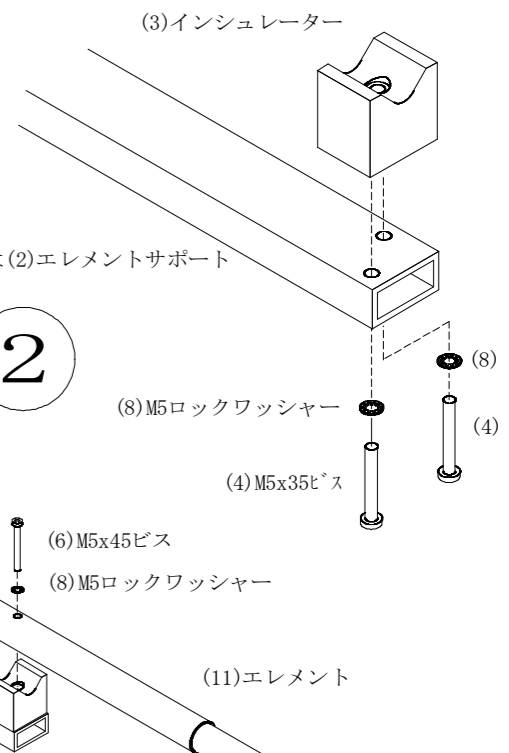
(41)ブームAに同様に取り付けます



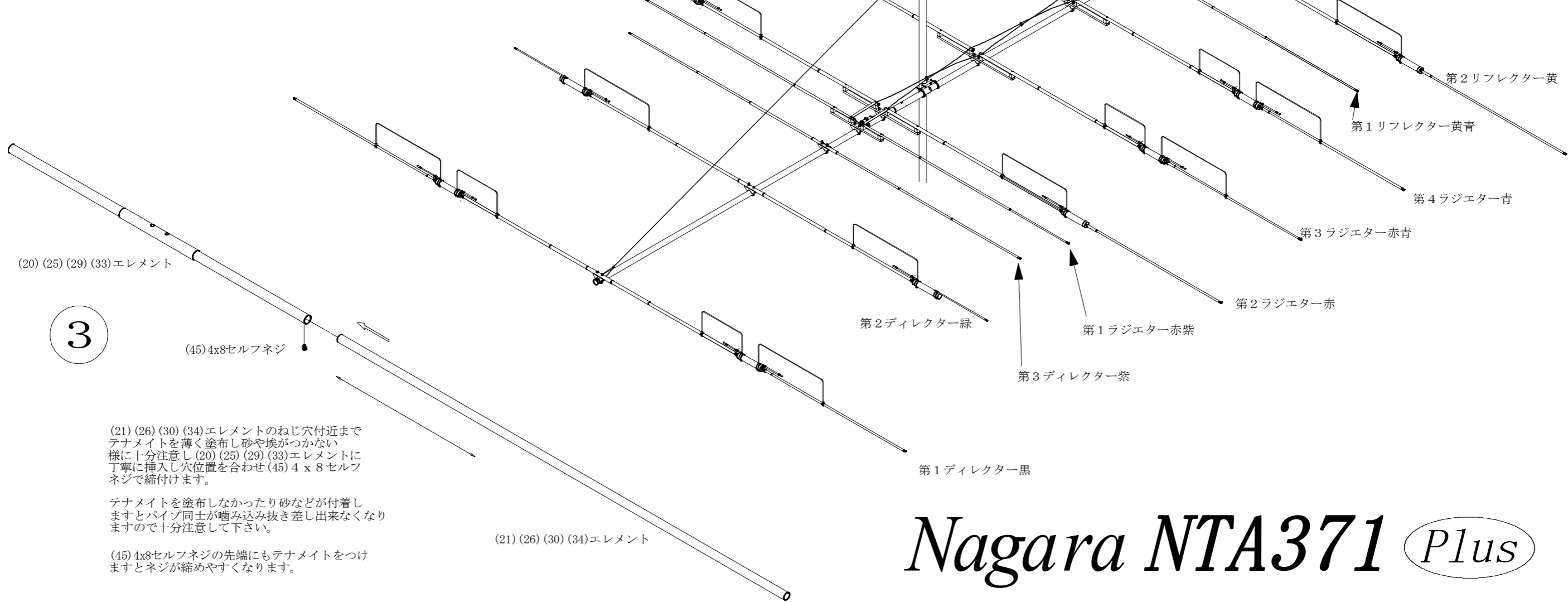
1



本機には(1)エレメントサポート(短) 1本と(2)エレメントサポート(長) 3本を用いますので同様に組立ててください。  
一本の(1)又は(2)エレメントサポートには4個の(3)インシュレーターを(4)M5x35ビス及び(8)M5ロックワッシャーで取付けます。  
(1)エレメントサポート(短) には(9)エレメントを(5)M5x40ビス及び(8)ロックワッシャーで取付けます。  
(2)エレメントサポート(長) には(11)エレメントを取付けます。ブームに近い側にはフェーズラインを共締めしますので(7)M5x50ビスを使用します。



2



3

(21) (26) (30) (34)エレメントのねじ穴付近までテナメイトを薄く塗布し砂や埃がつかない様に十分注意し(20) (25) (29) (33)エレメントに丁寧に挿入し穴位置を合わせ(45)4 x 8セルフネジで締付けます。

テナメイトを塗布しなかったり砂などが付着しますとパイプ同士が噛み込み抜き差し出来なくなりますので十分注意して下さい。

(45)4x8セルフネジの先端にもテナメイトをつけますとネジが締めやすくなります。

**Nagara NTA371 Plus**

4

(24) エLEMENT

本機には第1ディレクター、第2ディレクター、第2ラジエーター、第3ラジエーター、第4ラジエーター及び第2リフレクター用の6種類のトラップ・アッセンブリーが使用されます。

各トラップ・キャパシターには方向性があり、反対向きに組立てますと正常に動作しませんので注意して下さい。トラップ・キャパシターのカラー・マークの付いた側がブーム側になります。

第1ディレクター用のトラップ・アッセンブリーの場合、(24) ELEMENTのカラーマーク側にテナメイトを薄く塗布し(23) トラップ・キャパシターのカラーマークの無い側に差込み、穴位置を合わせ(45) セルフネジで固定します。トラップキャパシターのカラーマーク側にテナメイトを塗布し(22) ELEMENTに差込み同じく(45) セルフネジにて取付けます。他のトラップアッセンブリーについても同様に組立ててください。

### 第2ディレクター

●(28) 先端ELEMENTを(27) トラップキャパシターの留金具に通し、両端のキャップを取り付けます。トラップキャパシター側のキャップが金具に当たる位置でELEMENTを固定します。

(55) 9.5mmキャップ

(28) ELEMENT

カラーマーク (25) 9.5mmキャップ

ネジにテナメイトを塗布 (27) トラップキャパシター

(57) 15.88mmキャップ

カラーマーク  
テナメイト塗布

(23) 第1ディレクタートラップキャパシター

(45) セルフネジ

カラーマーク  
テナメイト塗布

(22) ELEMENT

(45) セルフネジ

カラーマーク

(40) 移相ELEMENT留金具 (小)

(37) トラップ用移相ELEMENT A

5

(38) トラップ用移相ELEMENT B

各移相ELEMENTの長い方の足には黒のカラーマークが付いています。

移相ELEMENTの短い方の足をトラップキャパシターの金具の穴に差込み、長い方の足を(39) 又は(40) 留金具の穴に差込みそれぞれ付属のネジで固定します。

(39) 又は(40) 移相ELEMENT留金具の端面をカラーマークに合わせます。

(39) 移相ELEMENT留金具 (大)

カラーマーク

第1ディレクター、第3ラジエーター及び第4ラジエーターにはそれぞれ(37) 移相ELEMENT(大) 及び(38) 移相ELEMENT(小) の二組が使用され、(38) 移相ELEMENT(小) はブーム側、(37) 移相ELEMENT(大) は先端側に取付けます。

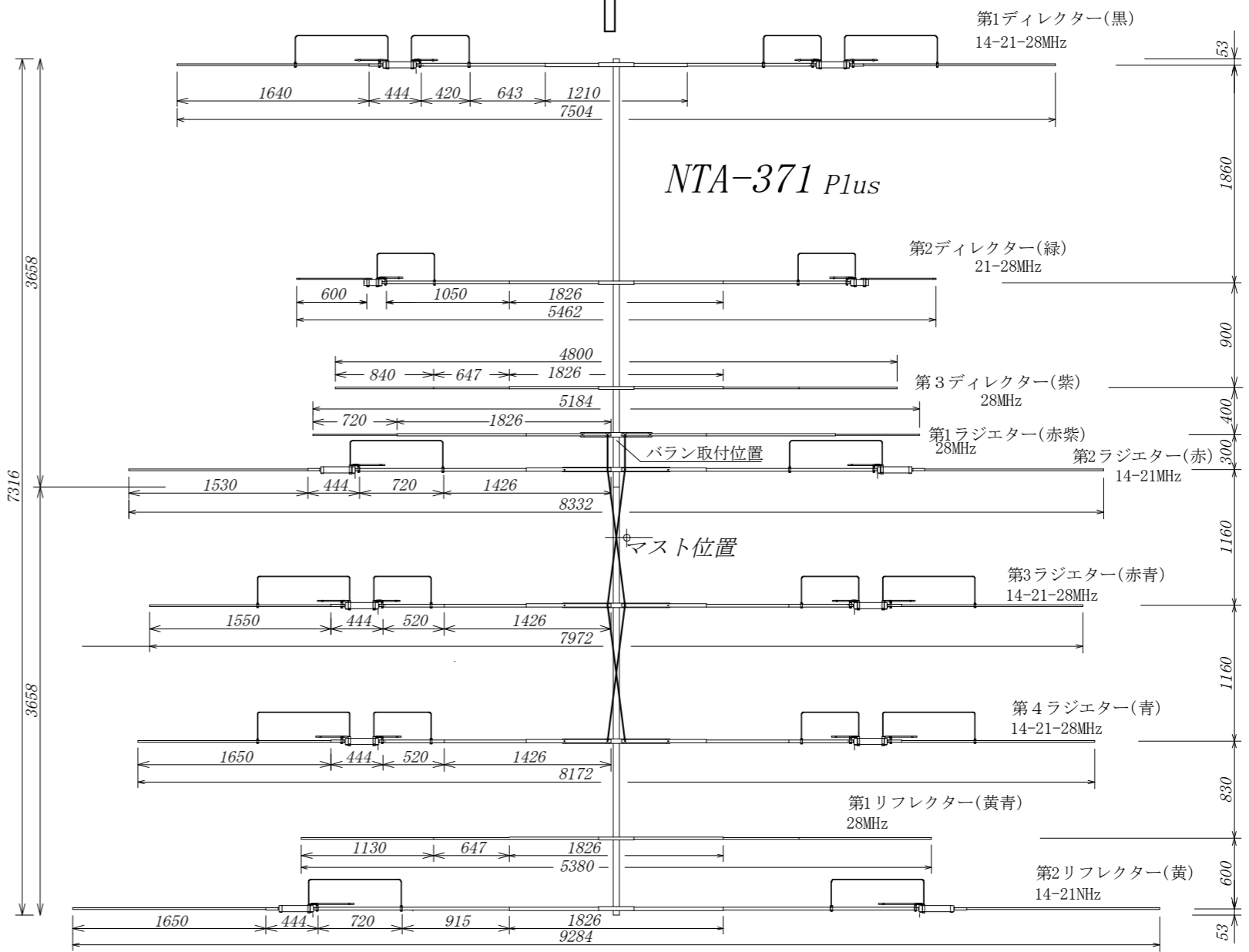
第2ラジエーター及び第2リフレクターには(37) 移相ELEMENT(大) のみを使用し、ブーム側に取付けます。

第2ディレクターには(38) 移相ELEMENT(小) のみを使用し、ブーム側に取付けます。

カラーマーク

(39) 移相ELEMENT留金具 (大)

前  
↑

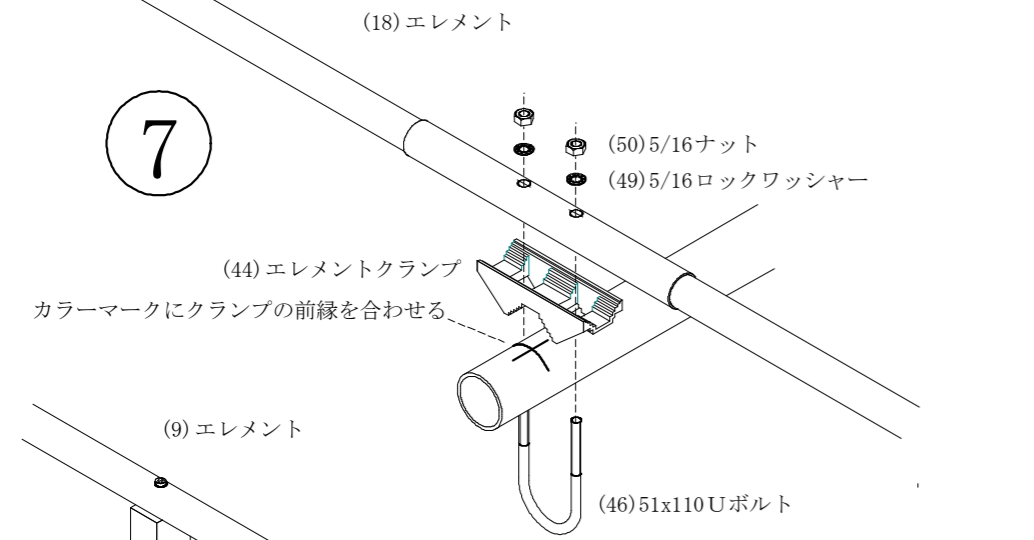


NTA-371 Plus

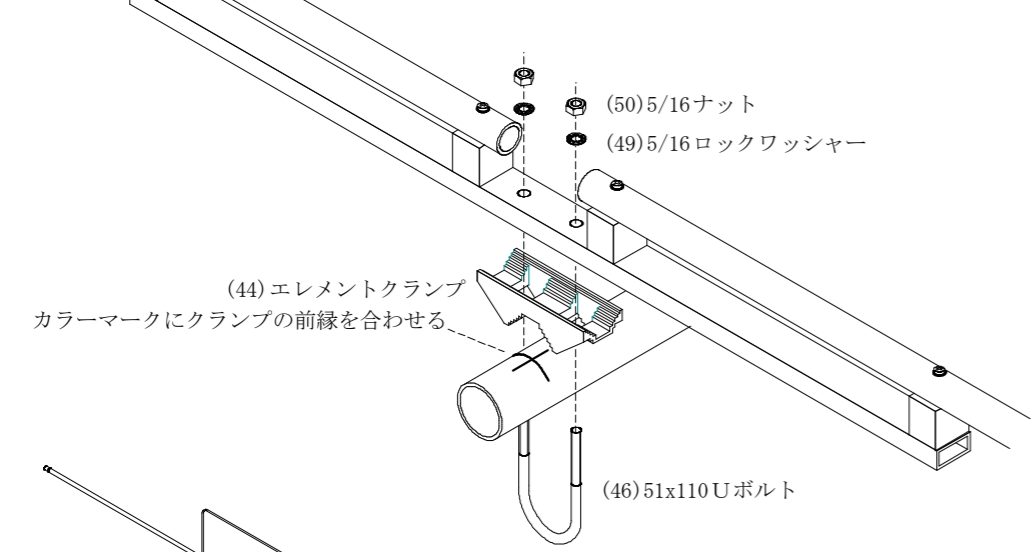
マスト位置

balan 取付位置

7



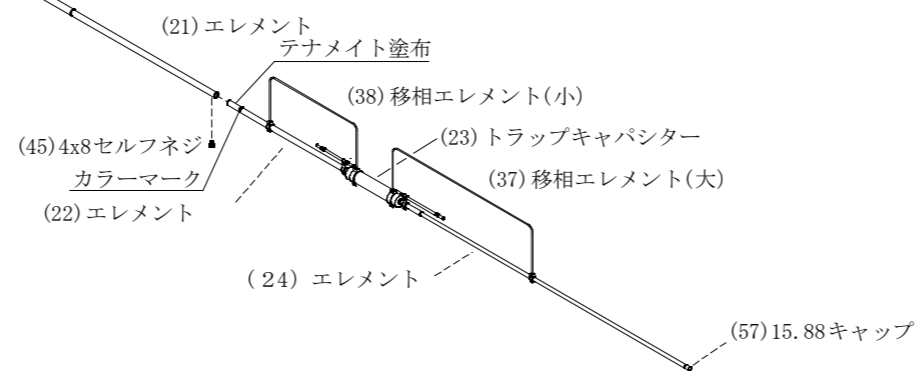
6



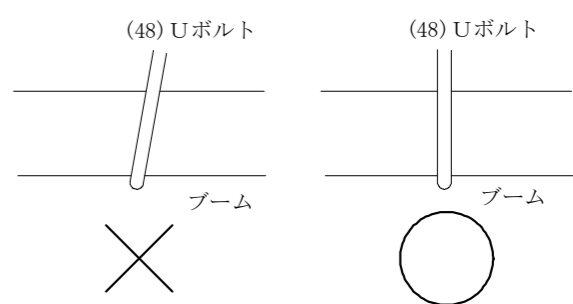
各エレメントはカラーコードに従って色毎に分類してください。この図では黒の第1ディレクターを例に品番を付与してあります。

エレメント上のカラーマークはそのエレメントのブームに近い側に付与されています。エレメントのカラーマーク側のネジ穴付近まで約8cmにわたりテナメイトを薄く塗布し対応するパイプ(エレメント)に挿入しネジ穴を合わせ(45)4x8セルフネジで締付けます。

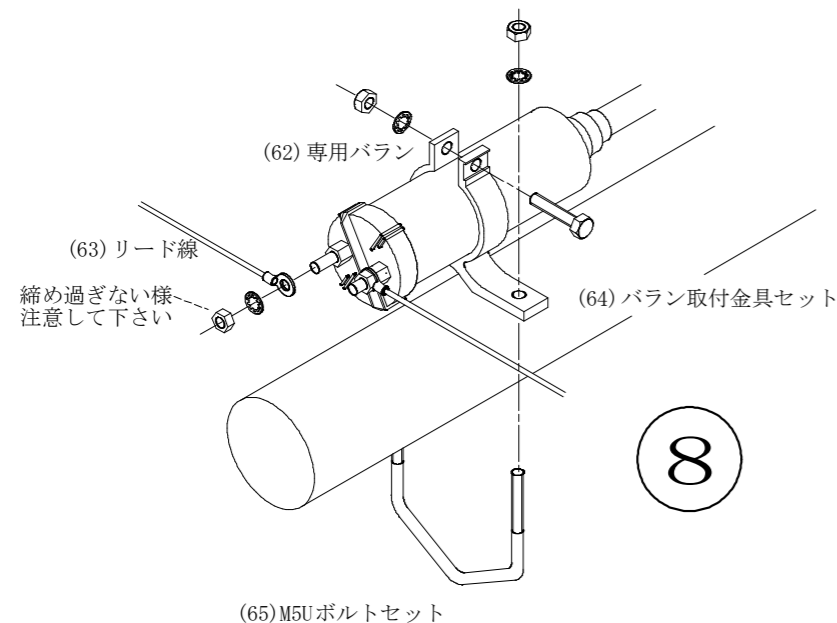
トラップにもブームに近い側にカラーマークが付与されていますのでカラーマーク側が必ずブーム側になる様取付けて下さい。反対向けに組立てますと正常に動作しません。



エレメントをブームに取付ける時、Uボルトがブームに垂直になる様に注意して下さい。傾いた状態で取付けますと後々ゆるんでしまう恐れがあります。

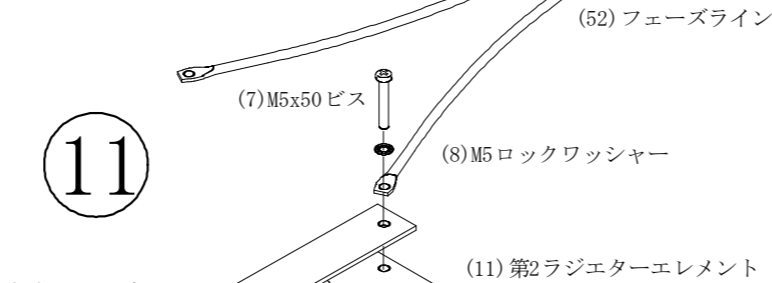


(62) バランの中央付近に(64) 取付金具セットを仮止めし、バランを第1ラジエーター直後のブーム上に(65)M5Uボルトで取付ます。(63) リード線を第1ラジエーターに取付けた後、最終位置決めをして下さい。  
 (63) リード線をバランに付属のM5ロックワッシャーとナットでとりつけますがこの時ナットを締めすぎない様注意して下さい。あまり強くしめるとバラン内部を破損する恐れがあります。

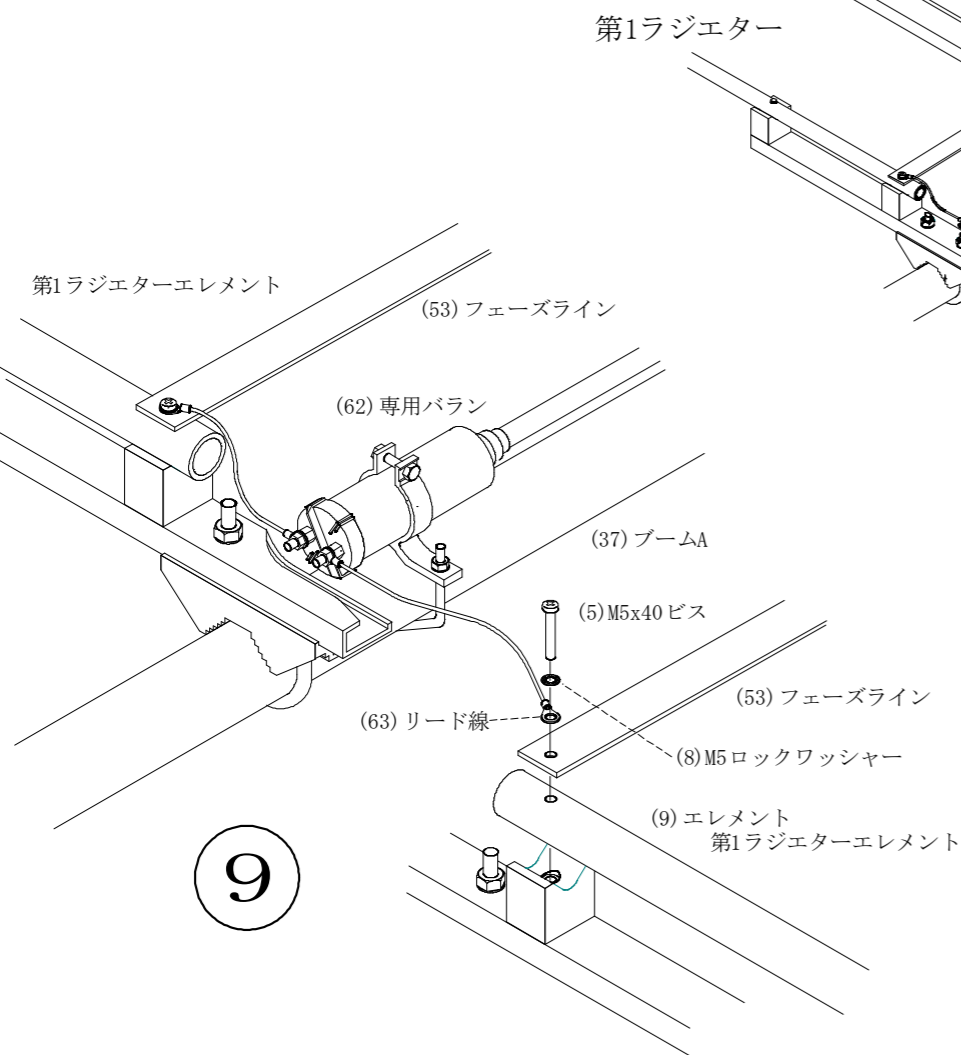
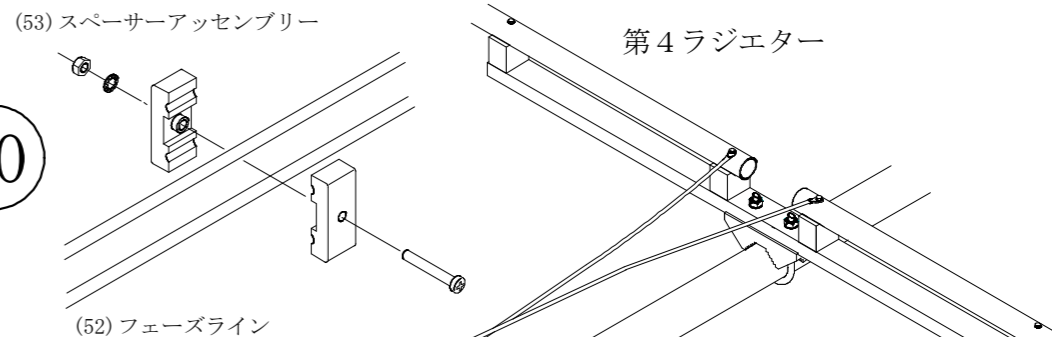


8

11



10



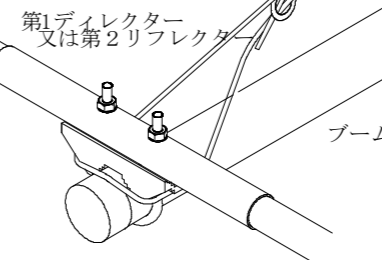
9

第2ラジエーター

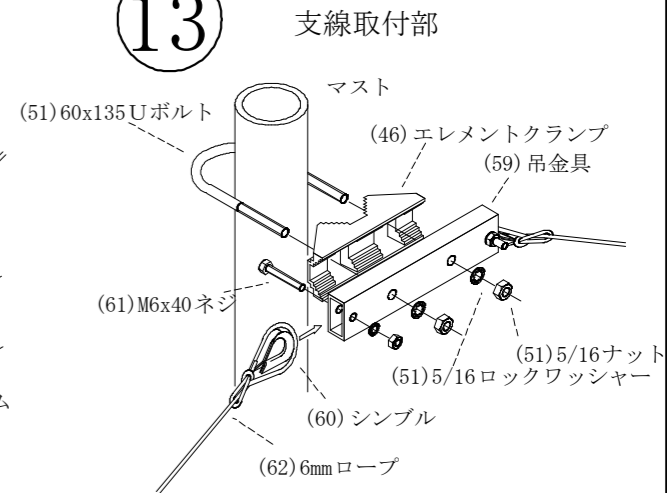
第1ラジエーター

(52) フェーズラインは交差します。

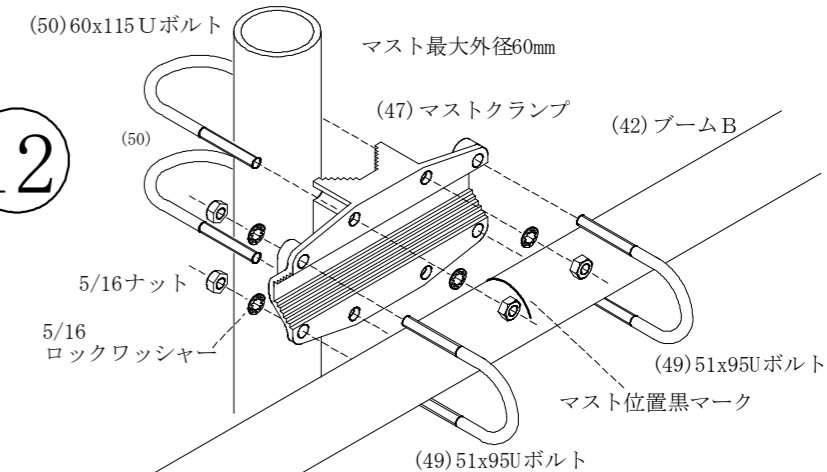
第1ディレクター及び第3リフレクターに(62) ロープを下図の様にくり付けます。



13



12



第1ラジエーター(赤紫)をブーム上の赤紫のカラーマークにエレメントクランプの前縁を合わせ(48)51x110Uボルトと付属の5/16ワッシャー、ナットで取付けます。第2、第3及び第4ラジエーターをそれぞれ赤、赤青、青のマークに合わせ仮止めします。

(53) フェーズライン及び(63) バラン用リード線を第1ラジエーターに(5)M5x40ビス、(8)M5ロックワッシャーで取付けます。(53) フェーズラインの後端と(52) フェーズラインを第2ラジエーターに取付ますが、この時第2ラジエーターを多少前後させて穴位置を合わせて下さい。

(53) フェーズラインは左右並行に取付ますが、(52) フェーズラインは交差し第2ラジエーターの右側エレメントは第3ラジエーターの左側エレメントに、そして第4ラジエーターの右側エレメントに接続されます。

第3ラジエーターには(51) フェーズラインの後端ともう一組の(51) フェーズラインを(7) M5 x 5 0 ネジと(8) M5 ロックワッシャーで取付ます。

第4ラジエーターには(52) フェーズラインの後端をネジ止めます。

アンテナをマストに架設しますとブームは少し撓みフェーズラインに張力が加わりますので、地上で仮マストに取付けて組立を行う様お勧めします。第2-第3ラジエーターをそれぞれ第1ラジエーターに平行になる様に並べUボルトを締付けます。

(42) ブームBのマスト位置黒マークを(47) マストクランプの中央に合わせUボルトで取付けます。  
 注 マスト取付位置は必ず指定の位置に合わせてください。位置を変更するとブームの強度が弱くなります。